

雜 纂

ブリュッセルにおける第五回萬國史學會

文學士 安 藤 俊 雄

十九世紀以來の國際主義の運動は二十世紀に入つて、科學研究方面において種々の國際的會合を生み、學術の進歩は世界人類共働的產物であつて學問思想に國境なきことを如實に示した。中學の領域に於ても、この氣運によつて既に一九〇〇年巴里に於て第一回萬國史學會が催されてから、第二回羅馬（一九〇三年）第三回伯林（一九〇八年）第四回倫敦（一九一三年）と回を重ねるに隨ひ次第に盛大となり多大の効果を收めた。しかるに世界大戰の勃發とともに、他の多くの學術的會合も同様であるが、殊に、動もすれば國家的國民的利害の

ために純學術的精神の没却され易い歴史學は、一時世界の人間の關心から遠ざかり、切角發展に向ひつゝあつた萬國史學會も中絶の悲運に會し、一九一三年倫敦に於ける大會のとき開催地を露都に指定されたる一九一八年の第五回目の計畫は水泡に歸した。しかるに戰後、世界平和熱の擡頭により、國際聯盟その他の國際運動の再興とともに、萬國史學會の第五回が今年四月白耳義ブリュッセルに開催されるに至つた。本年七月發行の亞米利加歴史評論二十八卷四號所載の W. G. Ireland の報告はこの會合の消息を詳細に傳へてゐる。又吾

京都大學文學部助教成瀬清氏はこの學會に出席せられ、同會のプログラム、出席者名簿總會及び部會に於ける主要なる研究報告の摘要を坂口教授の許に送られた、私はこれらを参考にしてこの學會の狀況を傳へやうとする。

參加人員七百以上、之を國別にすれば二十三ヶ國に上り、只、獨逸人學者を見なかつたのは残念であるが、それでも國際的會合たる名を失はぬ。

參加國人中、主催者たる白耳義人最も多く、佛國人之に次ぎ、英國及びその屬領、北米合衆國の順位である。主催者側たる白耳義は、國王アルペールを始め首相、外相、文相等の政府の要路にある人々、王室學士院、王室歴史委員會、ブリユツセルガン、リエージュ、ルーヴァンの各大學の總長、教授殊にガン大學教授、Henri Pirenne 以下の實行委員は大努力をしてゐる。會合は、四月八日から十五日に至る八日間でそのうち十日、十三日の午

後に於ける總會、九日より十四日にいたる連日午前における各部會とに於て、史學のあらゆる領域にわたり、數多の研究が發表された。會場は王宮の側なる Palais des Academies のみでは各部會の全部を收容しきれず、部會の或ものは王室美術館その他に催された。その上に白耳義各地に於ける史蹟の訪問踏査が行はれ、それ／＼白耳義の専門家が案内役となり、又自國皇室を始め各方面からの請待も盛に行はれた。

九日午前の總會には、萬國史學會幹部の選舉任命があり、議長ガン大學教授アンリ、ピレンヌ以下の白耳義委員の外に、各國代表者選任せられた北米合衆國を代表するコロンビア大學教授 James T. Shotwell 英國を代表するマンチェスター大學の T. F. Tout 佛國を代表する Theophily Homolle 露西亞を代表するオックスフォード大學教授 Vinogradoff 伊太利を代表するトリノ大學教授 Ga-

ano de Sanctis スイス代表ジュネヴァ大學の
Francis de Crue ポーランド代表ワルシャウ大學教
授 B. Dembinski いづれも現代斯界の耆宿である
同日の開會式は國王アルベルが皇后及び王子同
伴して臨幸し、外相藏相文相及び駐白列國使臣も
臨席し、Honolieの主宰によつて盛大に行はれた
席上ビレンヌ教授の現今歴史家の使命に關する演
説があつた。その概要は下の如くである。歴史家
は常に客觀的なることに努めねばならない。彼は
自己の黨派、宗教、國家を顧慮する權能を有たぬ
彼はこれら一切を超越して、批判的、不偏不黨で
あらねばならぬ。大戰の教訓は學問の僻見殊に民
族の差異を打破した。最早吾々は歴史現象を説明
するに民族の差異を考へてはならぬ。既往の民族
の融合は現今各國民の差別を困難ならしめた。も
はやいろ／＼の立脚點から、拉典、獨逸 スラー
ヴの區別を考へるわけにゆかぬ、開明諸國民の一

般的發展は、一個の共通法則に遵ふもので、若し
吾々にして、この法則の説明に民族といふ事實を
とり入れるならば、これ未知の問題を以て未知の
問題を解決せうとするものである。國民性の問題
は比較研究によるべく、一民族の歴史は、人類全
般の立場から、即ち、遂に大いなる全體の一部
として研究しなければならぬ。局限された見地か
らの考察は不完全な結果を齎らす。古代の歴史家
は綜合といふ觀念を有つた、これ現今の吾々に肝
腎である。歴史の世紀と呼ばれたる前の十九世紀
は、實は、事實を知るにとゞまり、學問的ではな
かつた。今や歴史に於いて、國民的立脚點は亡び
客觀、不偏不黨の立脚點が之に代つたのである。

十日の總會は、前日の儀式的なるに引きかへ純
然たる學會であつた。Revue Historiqueの主筆
M. Charles Bémontは『英王が佛王の稱號を拋棄
するに至る事情について』と題し、この稱號放棄

の問題は既にルイ十四世十五世時代に佛國から屢々提起されたこと、一七九七年リールの交渉の際佛國共和國の全權委員によつて提出された四個の豫備條件の一つは、この稱號拋棄であつたこと、このときの交渉は破裂したが、一八〇〇年リュネーゾイルの談判のときこの問題は再び提起され、遂に其年アイルランド併合後英國は自發的に佛王の稱號を拋棄するに至つたことを叙べた。エディンバラ大學の Sir William Ramsay は、希臘語に取り入れられた東方アナトリアの言語によつて、東方文化のヘレニズムに及ぼしたる影響を論じ、ワルシャウ大學教授 Zieliński は、トロヤ巫女の世界の終末及び再生に關する豫言を取扱ひ、この豫言的の中だど解釋されたる紀元前八四年以後の諸ろの事件を指摘して基督紀元前の最後の二世紀間におけるこの豫言信仰の歴史を跡づけた。最後にトリノ大學教授 Sanctis は、マケドニア王フィリップ五世が

第二マケドニア戰役に於て羅馬と戰ふや、陸戰の鹵獲の十分の一をデロスのアポロン神に奉納せる事實を論じ、この奉納のデートを紀元前二〇一年と確定し、この結論よりして紀元前二〇一年の戰役の年代、及びスバルタ王ナヴィスのために發せられたるデロス布告のデイトとその意義に關して推論を下した。

十三日の總會は、重要な學術的報告があつた。プリンストン大學教授で近代史を専攻し最近に Catherine de Medicis なる名著を出した Paul van Dyke がカタリナ・ド・メヂチの性格について研究報告をなし、ウイスクンシン大學教授 Rostovtzeff は、紀元第三世紀羅馬帝國內に於ける政治上社會上の危機が都市に對する地方農民の反亂にあつたことを指摘し、羅馬の Senator Carlo Calise は、昨年羅馬にて第一卷を出版されたる羅馬市における紀元七世紀以前の基督敎金石文の價値を報告し

これに次いで副會長 Frans Cumont は、紀元後三世紀に拋棄されたる希臘人の植民地 Douai-Europos の遺跡なるユーフラティス河畔の Salihiyeh の發掘、及びバルミラ神殿に於ける注目すべき繪畫について詳細報告し、ブリュッセル王室博物館の M. Jean Capart は、最近白耳義皇后の埃及ツタンカーメン王墳墓の見學旅行に供奉して視察せるところを報告した。

これら總會の外に連日各専門の領域によつて、部會が催され數多の研究報告があつた。部會はその數十三、その中の或ものは二個以上の小分會を有し、これらを合算すれば廿三個の部會となり、各部會は、三回乃至五回の集會を催した。部會の區分は下の如くである。(I) ^古オーリエント史、(II) 希臘羅馬史、(III) ビザンツ研究、(IV) 中世史、(V) (1) 近代史、(2) 現代史、(3) 亞米利加大陸史、(4) 植民地及び陸地發見史、(VI) (1) 宗教史、(2) (3) 教會史、(十二世紀

まで) (2) (3) (同十三世紀以後)、(VII) (1) 法則史、(2) 同(中世及び近代)、(VIII) 經濟史、(IX) (1) 文化史(古代思想)、(2) 同(中世及び近代思想)、(3) 醫學史、(X) (1) 美術史、(2) 考古學、(1) 史學研究法、(2) 史學の補助學、XII 世界大戰史の文書、XIII 文書館及び歴史教本の出版、これらの部會が會期中に催した集會は百以上に及び、發表された研究報告三百四十を越えてゐる。

最終日十五日には最後の總會が開かれた。これには連日開催されたる十三の部會における種々の決議事項が報告され、エロムビヤ大學教授、シヨットウエルの議長の下に全會一致で史學研究において數々の國際的事業の計畫を確定した、その主なるものを記せば下の如くである。オーリエント史の部會は Corpus Genmarum Asiae Anterioris Antiquarum の出版計畫を可決し、ビザンツ史部會は國際ビザンツ研究評論をブリュッセルにて創立し、その實行準備委員としてアテネの A. Andreades

エヂンバラ大學の Sir William Ramsay を始め
その領域の學者數名を指名した。經濟史部會は國
際經濟史評論を計畫し、バーミンガム大學の W.
William Ashley 教授ガン大學のピレンヌ教授等を
委員に指摘し、法制史部會は法學教育に於て法律、
制度史及びその史料の研究に重きを置くべしとの
意見を提出し、史學研究法部會は先づ次回の部會
に於て、東歐史部會を設置すること、第二には、
その際には史學研究法、理論、綜合に關する問題
に十分考慮をおくこと、國際委員を常設して、こ
れをして特に如上の問題に注意を拂はしめ、各國
史學者の援助を俟つてその研究を容易ならしむる
こと、第三には國際聯盟のインタレクチュアル・コ
オペレーションの委員に對して、同委員の提議せ
る新らしき一般史の研究に於て、歴史的綜合、理
論に重きをおき、個々の連絡なき事實を精確に且
つ客觀的に吟味するとき如上の歴史研究法を適

用することを念頭におくやうに希望した。中世近
代思想史の部會の決議した希望は、現今世界に於
ける二三重要國語以外の言葉で發表された學術上
の研究が學界にあまり知られずに終るのを遺憾と
し、世界の重要な學術雜誌にこれらの論文著書
を紹介することであつた。尙、同部會は、中世拉
典文寫本をその頭初の言葉 (incipit) によつて目録
をつくること、その仕事をルーヴァン大學に依頼
することを決議した。世界大戰史文書の部會の決
議は。大戰に關する出版物の批判的圖書目録の刊
行、各圖書館、戰史研究團體相互間の文書、書籍
目録の交換を實行するための施設を提議し、出來
得るならば、各國政府は、各地方行政區域、諸都
市の大戰文書館を分類する上に劃一的方法をとる
ことを協定すること、又、白耳義の大戰文書館委
員は大戰史に關する國際的著作により、多大なる便
宜を與へるやうに活動することを希望した。最

後に文書館の部會は次のやうな意見を提出した。

現今の數多の文書館は、専門的文書管理人の監督統御の下に中央集權的に管理されるべく、且、國境の變改のために國家相互間に文書館の移轉が行はれる場合には、その國の行政上の要求のみならず、また知識上、宗教上及び藝術上の利害關係をも顧慮に入れるといふのである。この外に部會に於て提議されずして直接總會に出されたる三個の

提案があつた。その一つは、ブダペストの M. Horvath の提案である一般史に關する圖書目錄作成である。これは既に國際聯盟のインテレクチュアル・コオペレーションの委員から本會へ提議されたものだ。第二は Franklin Jamesson の歴史圖書目錄年報の國際的出版事業、換言すれば今は廢刊せる Jahresberichte des Geschichtswissenschafts の如きものを多少模様更へて繼續するといふ計畫である。第三はインテレクチュアル・コオペレーション

の委員會の祕書 O. de Faleckis の提案で、これは自然科學の領域における同様の團體を研究した上で史學の國際的組合を組織せうといふのである。以上これらの提案や決議が本會の閉會とともに水泡に歸することのないやうに、且又、次の史學會の開催地を決定するため、この十五日の總會は最後に於いて、全會一致を以て左の事項を決議して後閉會した。

(一) 第五回萬國史學會は、國際間の共働的歴史事業を進捗せしめるために、常設の史學研究の國際的機關として國際史學委員 International Committee of Historical Science を設置す、第五回萬國史學會幹部は、これが設置の準備のため解散せず、事務をとり全世界各國の歴史學會と協議すること
(二) 第五回萬國史學會幹部及び之に代つて設置されたる委員は、一九二六年四月十五日以前に、一九二八年に開かるべき次回の學會開催地を決定す

ること。

(三) 如上の幹部及び委員は、第五回萬國史學會及びその他相當の史學團體からの提案を研究すべし
(四) 如上の幹部及び委員に於て代表されたる各國は各自唯だ一票の投票權を有するのみ、

要するにこの學會はその標榜するが如く世界各國史學者の國際的共働の實現の第一歩であつた。かくの如きは大戰後世界平和國際主義の氣運に醸

聖ヤークフ寺及び其墜域

文學士 雪山 俊夫

ワイマールの歴史を溯つて最古の地域を探ると聖ヤークフ寺の境内に達する。今日ではワイマール順禮者又は遊覽者の注意を喚起すること甚だ薄いけれども、あの一見田舎の小都會に見るやうな小規模の素朴な寺院と其墜域とはドイツの文化

成せられたものであらう。しかし前世紀に於て世界史の史學の進歩に多大の貢獻をなし、この世紀に入つても大なる活躍を續けた獨逸史學者が、この催しに參加しなかつたことは、その理由如何はともあれ、甚だ遺憾なことといはなければならぬ。吾々は來る一九二八年の史學會において、かゝる憾みの再び繰りかへされないことを切に祈るものである。

首都の發祥地であつた。此寺の開基に就ては寺の建築の南西壁にある Lucas Cranach の像を刻した墓標の上約四乃至五米突に嵌めてある石の上の文書と、寺の内部に在る祭壇に向つて左の柱に鏤めた石の上の小文書とに刻されてあるが、地上からは